



# えごた

<http://nk-egota-e.a.la9.jp>

令和元年  
夏休み臨時8月号  
江古田小学校  
児童数 420名

TEL 3385-0411

学校の教育目標◎かंगाえる子ども○やさしい子ども○たくましい子ども(◎重点目標)  
目指す学校の姿「元気いっぱい、笑顔で挑戦、子ども一人ひとりがよさを発揮できる学校」

## 残暑お見舞い申し上げます

校長 松井 貴子

夏の風物詩といえばどんなものを思い浮かべますか。

「夏は夜。月のころはさらなり。やみもなほ螢の多く飛びちがひたる。(中略)雨など降るもをかし。」枕草子一段にある有名な冒頭を思い出す方もいらっしゃると思います。7月の土曜学校公開の日より1階職員前には、本校6年生児童の作品「夏のさかり」と題する俳句を掲示しています。花火、かき氷、すいか、入道雲などの季語が上手に使われ、夏を言葉で楽しむことができました。

夏休みも半ばを過ぎました。江古田小学校の地域は勿論のこと日本全国各地で夏祭りや盆踊りなど地域の行事が盛んな時期です。家族や親戚の方と普段と違った体験をしたり、自分で計画し工夫して一日を過ごしたりと充実した夏休みをお過ごしかと存じます。

本校は平成30・31年度東京都人権尊重教育推進校の指定を受け、学校全体で人権感覚を磨き、言葉の力を高め、自分と相手の思いや状況について知り、考えて行動できる力を身に付けさせるため、教職員、保護者・地域の方と共に様々な取り組みをしております。

夏休みに入り7月31日には江古田小学校教員研修として、品川にある「お肉の情報館」にフィールドワークに出掛けて学んで参りました。そこで働く方から、職人としてプロ意識をもって学び続け仕事をしているというお話を伺い、大変心を打たれました。また、文化の中にある「けがれ」について黒と死・赤と血・白と生を結び付け、歴史的視点、文化人類学的視点からの貴重なお話を拝聴し、日常の心にある差別について見つめる機会となりました。展示会場には、小学生の感想や調べ学習の作品などが掲示されておりました。知識として「知る」ことの重要性を改めて実感いたしました。

また、8月2日の東京都人権プラザの教員対象セミナーでは、講師として上智大学外国語学部教授出口真紀子氏をお迎えして「人権教育の方法論を学ぶ～差別の心理学と立場の心理学～」という講座が開催されました。特に心に響いたのが、「特権(Privilege)」という考え方です。会場は定員80名でしたが、当日120名を超える満員となりました。会場全員で「教室でできるアクティビティ(特権はもっている人には見えにくいということを体験的に学ぶ)」を行いました。

9月のPTA運営委員会でご紹介して、保護者の皆様とも考えたいと思います。

更に平和について考える機会として、8月6日広島「原爆投下の日」に、広島市立亀崎小学校を表敬訪問し、平和教育を拝見して参りました。平和記念式典のテレビ視聴の後、教室で黙祷し、児童平和宣言後に全校児童は体育館に移動し、新宅校長先生のお話を聞きました。その中で、広島の路面電車は焼け野原の中、人々が力を合わせて、被爆から3日後には復興したという話が心に残りました。校長先生のお話の後、6年生代表児童から平和作文の発表と「原爆の子の像」碑前夜祭の報告会があり、最後に平和学習「ひろしまのエノキ」16ミリを視聴しました。このように、広島では8月6日を登校日として、繰り返し平和についての授業などが実施されており、年間を通して平和ノートやワークシート等を使って実践をまとめているそうです。

「人権」や「平和」について考えるには、歴史から事実を学ぶと共に、「当事者の思い」に触れることも大切であると思います。直接「当事者の思い」に出会うことが一番の意識改革につながると感じます。しかし、どの子どもも同じような機会に恵まれるとは限りません。学校では教材との出会いを意図的に設定し、体験を積み重ね、物事の背景や他者の思いを想像する力や、よりよい未来を創造できる力を育てていきたいと思っております。